



シリーズ  
埼玉の隠れた銘品百選

⑥9

純米吟醸 毛呂季光<sup>すえみつ</sup>  
(麻原酒造株式会社)

風薫る奥武蔵の山々に抱かれた入間郡毛呂山町。越生町を源流とする越辺川が流れ込むこの瑞々しい土地で、明治15年(1882年)、麻原酒造は開業した。初代の麻原善次郎は、琵琶湖畔に生まれ、9歳で東京青梅の酒蔵に奉公に入り、29歳の時に現在の毛呂山にきた。善次郎は、「近江やに名高き松の一本木 先から先へと開くさゝ浪」との歌に、心を込めて造った酒はさざ浪の如く世に伝わりとの思いを込めた。代表銘柄である「琵琶のさざ浪」の銘はこの歌にちなんでいる。

それから140余年、五代目当主の麻原健一さんは代々受け継がれた蔵元としての矜持を保つ傍ら、フランス・ブルゴーニュでのワイン醸造修行というキャリアを活かして、越生ブリュワリーにてリキュール、ワイン、ビールなどを造り、数多のヒット商品を国内外に送り出している。また、受託製造にも積極的で、自治体や生産者・販売者の想いに寄り添いながら、各地域の魅力を活かしたオリジナル製品を開発している。



今回紹介するのは、オール毛呂山の素材にこだわった「純米吟醸 毛呂季光」。季光は、源頼朝の最側近であった毛呂山郷の鎌倉武将。毛呂山産の埼玉米「彩のきずな」を、フルーティーな風味を押し出す埼玉G酵母で醸した。

発売は本年4月の蔵開きのイベントに合わせた。当日訪れた左党諸兄の評価は、「パイナップルのような香り、雑味なくスッキリしていてキレが良い」と上々であったというが、まったく同感である。「ロック、ソーダ割りも良い」とか。確かにぴったりかも知れない。



■ 麻原酒造株式会社

五代目(代表取締役) 麻原 健一

〒350-0451 入間郡毛呂山町毛呂本郷94番地

URL:<https://www.musashino-asahara.jp>

(武蔵野銀行 坂戸支店取引先)



毛呂山町・本社酒蔵



越生ブリュワリー